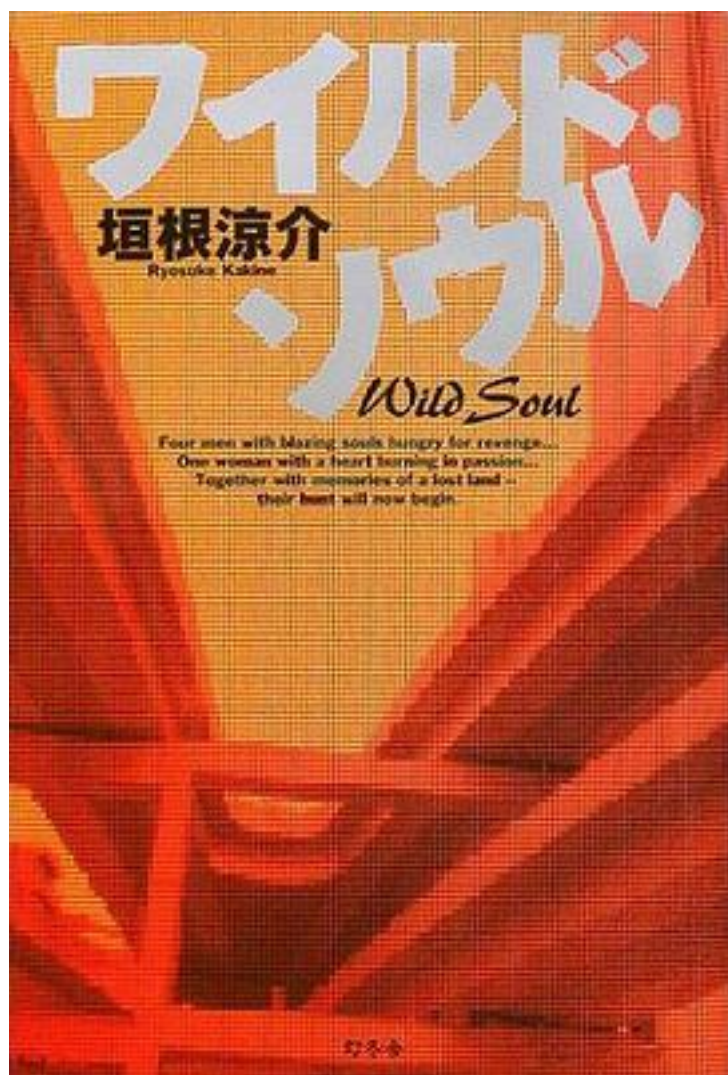


ワイルド・ソウル



[ワイルド・ソウル 下载链接1](#)

著者:垣根涼介

出版者:幻冬舎

出版时间:2003/08

装帧:单行本

isbn:9784344003736

【日本推理作家協会賞（第57回）】 【大藪春彦賞（第6回）】 【吉川英治文学新人賞（第25回）】 忌まわしい過去を振り切ろうと、男達はそれぞれの別天地（ワイルド・ソウル）を目指す。東京を縦断しながら、フルスロットルで加速する史上最強のクライム・エンターテインメント。幻冬舎創立9周年記念特別作品。

『午前三時のルースター』で2000年のサントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞してデビューを飾った垣根涼介は、旅行会社の添乗員だった経験を生かしたリアルな舞台設定と、繊細な人物描写を得意とする新しい才能である。そんなクライム・エンターテインメント小説の気鋭が、事実を基に練り上げ1年をかけて書き下ろした意欲作が本書である。国の無責任な移民政策による被害者たちの怨恨という難しいテーマを、きめ細かく鮮やかに料理し、読者を突き抜ける爽快感へと導く。

外務省、ひいては日本国にだまされた形で南米へ移住し、辛酸をなめた人間たちの復讐譚（たん）が、骨太につづられる。爽快なリベンジというのは妙な話だし、書名と装丁からも、盛大に人が死んだり大量な血が流れるステレオタイプなクライム・ノベルを想像しがちだが、それはまったくの間違いだ。垣根の作品に共通する要素は、「美意識を共有する者同士は、初対面から信頼しあい決して裏切らない」というテーゼと、自動車マニアやメカ好きなクールガイが多く登場する、という2点。また、ある種の性善説にもとづく博愛的世界観および諦念、それから底辺に生きる人間への優しいまなざしも随所に感じさせる。本作では、それらの「垣根要素」がうまくミックスし、更に2か月にわたる南米取材を糧に、存在感のある登場人物が大活躍する理想のリベンジ譚となった。

主要な登場人物ではないが、外務省襲撃の目撃者で夜ごと首都高をとばすルーレット族の男性が、「機関銃がバンバン撃たれているところを見たかった」「外務省が嫌いだから…ザマアミロって思っていた」と証言する場面がある。読者の気分を代弁すると共に、ヒッチコックのように、一瞬作者が姿を現したようで面白い。今後も目の離せない書き手のひとりだ。（坂本成子）

作者介绍:

〈垣根涼介〉1966年長崎県生まれ。筑波大学卒。2000年「午前三時のルースター」で第17回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞してデビュー。著書に「ヒートアイランド」がある。

目录:

[ワイルド・ソウル_下载链接1](#)

标签

日本推理

推理

评论

[ワイルド・ソウル_下载链接1](#)

书评

[ワイルド・ソウル_下载链接1](#)